

立命館大学

国際平和ミュージアムだより

KYOTO MUSEUM FOR WORLD PEACE, RITSUMEIKAN UNIVERSITY

Vol.30-1 (通巻87号) 2022.6.29発行



Contents

01	理念・総括	
02	声明	ミャンマーの軍事クーデターを非難し、民主主義の破壊を憂慮する ロシアによるウクライナ侵略を糾弾し、ウクライナ市民との連帯を表明します
03	第2期リニューアルにむけて	
04~07	入館者状況・展示報告	
08~12	平和教育研究センター活動報告	
13~15	教育普及活動報告	
16	博物館資料	
17	2021年度活動記録	
18	リニューアルに伴う休館中のご利用案内	
19	遊心雑記	

理 念

人類は20世紀において、2度におよぶ世界大戦を経験し、幾千万もの命を失いました。しかし、地域紛争は今なお絶えることなく、多くの人びとが生存の危機にさらされています。また、飢えや貧困、人権抑圧や環境破壊など人類が共同して解決すべき問題も、多様な形で浮上ってきています。わたしたちは、紛争の原因を取りのぞき、人間の可能性が豊かに花開く平和な社会の実現に向けて努力することが求められています。

立命館大学国際平和ミュージアムは、平和創造の面において大学が果たすべき社会的責任を自覚し、平和創造の主体者をはぐくむために設立されました。

総 括

2021年度は年度当初よりリニューアル準備のための長期の休館となりましたが、春学期中（2021年4月1日～2021年9月25日）については本学の学内団体に限定して見学受け入れを行うこととしました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から4/15～6/20および8/2以降については見学受け入れを行うことができませんでしたが、法学部、産業社会学部、文学部、国際関係学部の授業や教養科目の授業で常設展示を見学いただくことができました。また、世界報道写真展2021は、滋賀会場（10/11～10/15）、京都会場（10/18～10/31）を開催し、1,807名の見学がありました。

休館中の取り組みとして作成した「巡回展示キット」は図書館の協力を得て、大阪いばらきキャンパス、びわこ・くさつキャンパス、衣笠キャンパスで展示を行うことができました。このキットは「平和のための京都の戦争展」や「茨木市非核平和展」でもアウトリーチ展示として展示しました。当館の平和教育研究センターが主催する各種講演会・研究会・ワークショップ等は感染拡大防止の観点からWEB開催となりましたが積極的な取り組みを行い、WEB開催の利点を生かし、遠方の方や他キャンパスの学生等これまでに参加いただけなかった多くの方に参加いただくことができました。

ミュージアム学生スタッフは従来型の来館者へのガイド活動ができなくなり、新たな取り組みとして、教育普及ツール「すごろく」の開発を行いホームページ上で公開しました。また館長・名誉館長によるデジタル平和講義や「平和友の会」のみなさんの協力を得てデジタル平和講話の開発を行い、新たな形で当館のメッセージを発信するためのツールを開発しました。これまで行ってきた貸出用教材キットやパネルと合わせて、学校教育や様々な平和学習で活用いただけるようになりました。

重点事業に位置付けていた「第2期リニューアル」の取り組みについては、建物リフレッシュ工事の設計会社（安井建築設計事務所）および展示リニューアルの設計・施工会社（(株)丹青社）との調整や2020年度から設置している「リニューアル具体化検討委員会」での検討を行いました。学内外の専門家の意見聴取や、時代区分毎の「検討部会」を設置して、より詳細に展示について検討を行いました。これらの取り組みを経て2021年8月23日開催のミュージアム評議会において「国際平和ミュージアム第2期リニューアル実施設計（最終報告）」の承認を得ることができました。

2022年度からの本格的な工事の開始にむけて、博物館資料は学外の倉庫へ、ミュージアムオフィスは洋館へ移転しました。



立命館学園の教学理念「平和と民主主義」の象徴である「わだつみ像」はリニューアル工事期間中、衣笠キャンパス平井嘉一郎記念図書館内に設置されます。

ミャンマーの軍事クーデターを非難し、 民主主義の破壊を憂慮する

世界の多くの国や地域で民主主義に対して様々な挑戦が行われていますが、2021年2月に発生したミャンマーにおける軍事クーデターは、民主主義のみならず人権、人道への挑戦です。長い軍政が終焉して、民主的な統治が動き始めたばかりのミャンマーで起こっている非人道的な事態に対して、世界各地からも非難の声が上がっています。国連では事務総長や安全保障理事会が声明を出すとともに、ミャンマー軍による市民に対するさわめて悪質な暴力行為（7歳の少女も犠牲に）は、人道に対する罪が国際刑事裁判所で問われうることも報道されています。世界中の多くのNGOも抗議声明を出し、一部にはミャンマーで活動する多国籍企業さえも抗議行動に参加し、世界銀行とアジア開発銀行はミャンマーに対する融資を一時停止しました。

平和を希求し、歴史的教訓の上に平和創造への判断枠組みを提供する当国際平和ミュージアムとしても座視することができない状況です。本学を含め多くのミャンマーからの留学生を抱える大学も直接的な被害を受けています。新型コロナウイルス感染症の蔓延で移動の自由が束縛されている中、学びを継承するオンラインもサイバー規制によって阻害され、兄弟や親戚が軍によって殺された人たちもいます。今のところ通じているFacebookを利用して、学生や卒業生から刻々と入ってくる被害状況の報告や画像には大きな驚きとともに、強い憤りを禁じえません。

居たたまれない気持ちをもつ学生諸君に寄り添い、蛮行を繰り返すミャンマー軍に対して、立命館大学国際平和ミュージアムとして強い怒りの声明を発するとともに、直ちに反人権的な行為を停止するよう求めます。日本政府も、国際社会と連携して平和的な解決に向けて適切な措置を遅滞なくとるよう要求します。

2021年4月9日

立命館大学国際平和ミュージアム

館長 吾郷 眞一

名誉館長 安斎 育郎

ロシアによるウクライナ侵略を糾弾し、 ウクライナ市民との連帯を表明します

誰もが想定していなかった武力による主権侵害、領土侵略が、21世紀に入った今日も公然と行われるのを目の当たりにして、耳を疑い、言葉を失います。しかも、国連憲章の下、安全と平和の維持に責任を持つ、国際連合安全保障理事会の常任理事国自らによる侵略行為です。

プーチン大統領が述べる、「自国民保護」「現地からの介入要請」などの様々な理由もまた、20世紀初頭戦争が違法化される前によく聞いた言葉であり、今回の明確な国際法違反行為を正当化するために使われていることに驚きます。独立国であるウクライナへの侵略行為は、NATOの勢力拡大阻止が本当の理由だといわれています。私たちはNATOのロシア包囲網による軍事的緊張の高まりを望むものではありませんが、理由が何であれ核の使用すらちらつかせるプーチン大統領の姿勢は、法を何とも思わない言語道断な振る舞いといえるでしょう。

国連総会が策定した侵略の定義に明確に合致する今回の侵略は、ウクライナの人々の生命身体を脅かす最たる人権侵害であり、人間の安全保障を根底から否定する蛮行であることから、決して許すことができません。

世界各地で戦争反対の声が上がっています。すぐに弾圧されてはいるようですが、ロシア国内でも反対の声が上がっていることには、一縷の望みを見ることができます。戦争を拒否し、市民社会の力で平和を達成することを展示で示そうとしている立命館大学国際平和ミュージアムは、今回のロシアの侵略をきっぱりと糾弾し、反戦のために立ち上がっている人々と連帯し、速やかなロシア軍の引き上げと、戦争責任者の処罰、賠償の開始など法の支配への回帰を訴えます。

2022年3月2日

立命館大学国際平和ミュージアム

第2期 リニューアルにむけて

2021年度の活動

リフレッシュ工事

2021年度は、トイレの改修はじめアカデミア立命21全体に関わる改修事項や展示室の配置など国際平和ミュージアムに関わる改修事項について、設計会社と概ね2週間に1度の打ち合わせを行い、工事におけるゾーニング、施設の機能やサイン計画を確定しました。

展示設計

設計・施工会社である丹青社と概ね2週間に1度の打ち合わせを行い、2度の具体化検討委員会を経て、2021年8月23日開催のミュージアム評議会にて「基本設計」の承認を得、その後学内外の専門家による協議、検討および2度の具体化検討委員会を経て2022年1月14日開催のミュージアム評議会にて「実施設計」の承認を得ました。

基本設計～実施設計

博物館活動全体を包括したリニューアル事業として、大学立博物館としての学術成果の還元と、社会教育施設として来館者の理解や学びにつながる情報伝達の場としての展示という二側面からの検討を行いました。また「平和のための京都の戦争展」という市民運動を核として成立した平和博物館として、現代における多角的な平和教育実践の方法を模索しつつ実施設計を完了しました。



現行展示記録

リニューアル工事のために、2005年度以降の常設展示が全て撤去されることから、現行展示を記録する取り組みを行いました。写真記録、映像記録、3D空間記録の3種類に取り組み、映像記録は、学生スタッフ4名、ボランティアガイド28名の協力を得て、35本のガイド動画を撮影しました。



写真記録から現在までの常設展

2022年度にむけて

2022年度は、「実施設計」にもとづき実際に展示を制作する年となります。展示制作会社と協力して、実際に展示する資料（実物資料、写真パネル、解説パネル、映像資料）を確定し、展示するための著作権処理、映像資料の編集や解説文作成などを行います。

また、展示見学中に使用できるガイドブックや多言語音声デバイスの開発や事前・事後学習で活用できるホームページやリーフレットの作成なども行います。

こうした準備を整え、2022年秋頃から2023年9月以降の団体見学の受付を開始する予定です。

2021年度入館者状況 (2021年4月～2022年3月)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
入館者数	35	4	—	103	—	—	—	—	—	—	—	—	142
累計 (開館当初からの入館者数)													1,146,842

※4月1日よりリニューアルに伴う休館に入りました。春学期（4月1日～9月25日）の間、立命館大学関係者へのみ開館いたしました。

展示報告

1 常設展

2021年4月よりリニューアル休館しています。2021年度春学期まで立命館大学関係者のみ見学を受け入れる予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で学内見学についても休止期間が長く続き、見学団体は6団体にとどまりました。常設展示場に展示していた博物館資料などは12月から梱包を開始し、2月には外部の美術品専用倉庫に保管が完了しました。



地階展示室内「現代の戦争」

地階展示室では、「平和をみつめて」の大テーマの下に「一五年戦争」「現代の戦争」の2つのテーマを設け、日本の「一五年戦争」と「第二次世界大戦以降の戦争と平和」を中心に展示を行っています。戦争の実態を通して、平和な世界のために何をしなければならないのかを考えます。

2階展示室では、「平和をもとめて」をテーマに、戦争や核兵器の問題だけでなく、人間が、自分の力を十分に発揮して生きることを妨げる様々な要因を考え、平和の道筋を探るための展示を行っています。また、平和をつくる主体としての市民平和活動を紹介する展示、平和をはぐむ京の人びとの展示も行っています。

2021年4月よりリニューアルのために休館となっておりますが、ホームページにてWEB常設展示としてご覧いただくことができます。

WEB展示

2020年度より、常設展示や企画展示、広報物の一部をウェブコンテンツに再構成し、「WEB常設展示」「ミュージアム資料」などのWEB展示としてホームページに公開しています。2021年度は、リニューアル休館中における史資料の利活用および情報発信を図るための取り組みとして、あらたに「寄贈資料」を取り上げた資料紹介をWEB展示として公開しました。



3 アウトリーチ

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で一部中止となりましたが、2021年度は3か所でアウトリーチ活動を展開することができました。新たな取り組みとして、立命館小学校と協同した展示および関連イベントを実施しました。

立命館附属校 アウトリーチ展示

立命館附属校 展示協力

立命館小学校展示

「広島×原爆×当時の暮らし」

会 期：2021年7月5日(日)～7月20日(火)

会 場：立命館小学校 メディアルーム、ロビー



平和講義および展示紹介

「平和ってなに？ 広島研修にむけて」

日 時：2021年7月5日(日)10:40～11:25

会 場：立命館小学校 アクトシアター

対 象：五年生

「広島×原爆×当時の暮らし」と題して、平和学習の事前研修のための資料展示を行い、あわせて関連図書の紹介を行いました。展示内容は担当教員と協力して構成し、関連イベントとして平和講義と展示紹介を実施しました。当初は五年生を対象とした展示の予定でしたが、先生方のご尽力により全ての児童に見てもらうことができました。

第41回 平和のための京都の戦争展2021

《展示企画》

「おーい！日本人兵士諸君、聞こえるか！

—中国における日本人反戦活動—

会 期：2021年7月23日(金)・(土)～7月29日(木)

会 場：京都教育文化センター 102号室

主 催：日本中国友好協会京都府連合会

協 力：立命館大学国際平和ミュージアム



第41回平和のための京都の戦争展2021で日本中国友好協会京都府連合会主催の2つの企画に協力を行いました。これらの企画は国際平和ミュージアムに寄贈された「鹿地巨資料群」に関する企画で

《講演会企画》

「鹿地巨資料から見る在華戦争捕虜について」

開催日：2021年7月23日(金)・(土)13:45～16:00

講 師：貴志俊彦氏（京都大学教授）

会 場：京都教育文化センター301号室

主 催：日本中国友好協会京都府連合会

協 力：立命館大学国際平和ミュージアム



あり、展示企画や講演会を通して、過去の戦争の事実と平和創造について参加者に伝えることができました。展示企画では、会期中「常設展巡回展示キット」第2章「戦争がなければ平和でしょうか？」の展示も行いました。

令和3年度 茨木市非核平和展

立命館大学国際平和ミュージアム

常設展紹介展示

会 期：2021年7月27日(火)～8月1日(土)

会 場：茨木市立中央図書館 2階ギャラリー

主 催：茨木市

協 力：立命館大学国際平和ミュージアム

当館の巡回展示キットを活用した「国際平和ミュージアム出張展示 in 茨木」を実施しました。1週間という短い期間ではありましたが、茨木市非核平和展の来場者数はのべ945人（157.5人/日）にのぼり、2021年度も地域や行政と協力した取り組みにすることができました。

4 常設展巡回展示

リニューアル休館中の取り組みの一つとして、常設展示の内容をコンパクトにまとめた展示キットを制作し、2021年度より運用を始めました。2021年度の運用として本学3キャンパスの図書館を巡回しました。

常設展巡回展示キット

《作成の目的》

当館は、リニューアル工事に伴い、2021年4月から2023年9月まで休館しています。巡回展示は、休館中も継続して本学の平和教育に資することを目的とし、資料の活用を図るために制作しました。新型コロナウイルス感染症による社会状況をふまえて、感染拡大防止に配慮した展示を行っています。

《キット内容》

1. 一五年戦争、敗戦から現代へ

- ・ 軍隊・兵士
- ・ 総動員体制下の社会
- ・ 日本の領土拡大と抗日運動
- ・ 空襲・沖縄戦・原爆
- ・ 敗戦一裁かれた戦争犯罪／
- ・ 第二次世界大戦後の国際情勢
- あたらしい憲法

2. 戦争がなければ平和でしょうか

—3つの暴力と平和への取り組み

- ・ 平和を追求する人々の力 NGO活動紹介
- ・ ミュージアム平和年表
- ・ 暴力と平和を考える
- ・ 市民による平和活動



開催記録

OICライブラリー

会期：2021年4月1日(木)～4月29日(木)・(祝)

BKCメディアライブラリー

会期：2021年9月24日(金)～10月31日(日)

KIC 平井嘉一郎記念図書館

会期：2021年11月24日(水)～2022年1月27日(木)



授業などで話を聞くのと、実際に展示物などを見るのでは全く感じ方が違いました。これまで知らなかった戦争の実態、歴史の残酷さを学習することができました。原爆についての展示が、最も衝撃的でした。同じ過ちを繰り返さないために、日本の歴史をしっかりと学ばなければならないと思いました。

(政策科学部二回生)

戦争についてや、平和については義務教育期間から何度も繰り返し学んできたことです。しかし、授業などで知るものよりも、展示などで自主的に学べ、実際に体験・体感することができました。今回小規模な展示でしたが、覗いてみて良かったと思います。

(経営学部一回生)

平和教育研究センター活動報告

平和教育研究センターは、国際平和ミュージアムの設立以来の教育研究業績を基礎に国際平和ミュージアムの教育研究機能を担うこと、この分野の発展に貢献することを目的として、2016年12月の開設以降特色ある活動に取り組んでいます。

2021年度は国際平和ミュージアムがリニューアルのため休館をしている中でも、国際平和ミュージアムとしてのメッセージを発出するため、各種講演会・講習会の開催、プロジェクト研究の推進、紀要発行などに取り組みました。

1 センター企画・公開講演会

立命館土曜講座

平和創造に向けたスポーツの役割とは何か：
改めて、オリンピックの意義を考える

①85年前のこの月

—「民族の祭典」(1936)を振り返る

日 程：2021年8月7日🕒

講 師：有賀 郁敏氏 (立命館大学産業社会学部教授)



有賀 郁敏氏

②「資本主義リアリズム」とオリンピック

日 程：2021年9月18日🕒

講 師：市井 吉興氏 (立命館大学産業社会学部教授/
立命館大学国際平和ミュージアム副館長)

※システムの不具合により開催日を9月に延期しました



市井 吉興氏

オンライン講演会・討論会

①「ミャンマーの現状を理解するために」

日 時：2021年4月24日🕒11:00～12:30

講 師：松田 正彦氏 (立命館大学国際関係学部教授)

参加者：87名

②「核兵器のない世界」をめざすために

～核兵器禁止条約と私たちにできること～

日 時：2021年6月26日🕒18:00～19:30

講 師：川崎 哲氏 (ICAN国際運営委員/ピースポート共同代表)

参加者：135名

③「アフガニスタンの現状を理解するために」

日 時：2021年10月9日🕒13:30～15:00

講 師：嶋田 晴行氏 (立命館大学国際関係学部教授)

参加者：81名

④「国際法の立場から見る ウクライナをめぐる

問題についてのWeb 討論会」

日 時：2022年3月30日🕒16:00～17:00

討論者：吾郷 眞一氏 (立命館大学国際平和ミュージアム館長) ファシリテーター

西村 智朗氏 (立命館大学国際関係学部教授)

薬師寺 公夫氏 (立命館大学名誉教授)

越智 萌氏 (立命館大学国際関係学部准教授)

湯山 智之 (立命館大学法学部教授)

徳川 信治氏 (立命館大学法学部教授)

参加者：101名



教員免許状更新講習

オンライン講座 平和教育の多様な展開

受講期間：2021年7月21日(水)～10月20日(水)

第1講 「平和」の概念と現代の課題／ 「平和教育」の意義とねらい

安斎 育郎 (立命館大学名誉教授／
立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長)

第2講 「平和教育」の実践と課題

勝村 誠 (立命館大学政策科学部教授)

第3講 国際の平和および人権とミュージアムの展示

薬師寺 公夫 (立命館大学名誉教授)

第4講 「平和教育実践」に向けて 認定試験

金森 絵里 (立命館大学経営学部教授)

2 プロジェクト研究

平和博物館における戦争体験継承

平和博物館における戦争体験継承の在り方を、理論、実践両面から検討し、戦争体験者のいない次世代における平和博物館の展示の在り方を提起します。

①研究会

「戦争体験を第4世代(次世代)に語り継ぐ平和博物館：
平和教育学の観点から」(オンライン開催)

日 時：2021年10月29日(金)17:00～18:40

講 師：村上 登司文氏 (京都教育大学教授)

参加者：12名



村上 登司文氏

②フィールドワーク・調査

藤田 貞代氏聞き取り調査(家族の体験の聞き取り)
占領期の進駐軍兵士との交流について

日 程：2021年11月17日(水)

③オンラインシンポジウムでの発表

Trails of Peace between history, memory and communication (IULM University)

テーマ：Kyoto Museum for World Peace and its Approach to Memory

日 時：2021年12月10日(金)10:00～13:00

報 告：兼清 順子氏 (立命館大学国際平和ミュージアム学芸員／
立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センター運営委員)

博物館の資料研究 (一五年戦争セクション)

一五年戦争の実態や、戦争がその後の社会や人々に与えた影響に関する調査研究の中に当館資料を位置づけ、調査研究の進展、資料活用促進、若手による資料研究の促進を目指します。

メディア資料研究会 (すべてオンライン開催)

①第21回メディア資料研究会

「台湾史探求の落とし穴：植民地支配責任を考える前に」

日 時：2021年12月8日(水)17:00～18:40

報告者：都留 俊太郎氏 (京大文学部人文科学研究科助教授)

参加者：32名

②第22回メディア資料研究会

「カラー写真と占領期京都研究」

日 時：2022年1月17日(金)17:30～19:30

報告者：河角 直美氏 (立命館大学文学部准教授)

共同研究：衣川 太一氏 (神戸映画資料館客員研究員)

参加者：12名

③第23回メディア資料研究会

「国際平和ミュージアム学生スタッフによる研究報告」

日 時：2022年3月28日(日)17:00～18:30

①「小林秀雄「戦争と平和」論 —〈写真〉への眼差し」

報告者：佐々木 梓氏 (立命館大学大学院文学研究科博士課程前期課程一回流)

②「『銃後史ノート』について 一戦時を分析する主体の検討」

報告者：峯 桃香氏 (立命館大学大学院社会学研究科博士課程前期課程二回流)

参加者：16名



佐々木 梓氏



峯 桃香氏

博物館の資料研究 (戦後社会セクション)

戦後社会の中で、市民が平和を求めた動きの見直しと再評価に繋がる資料収集、調査、研究、展示を行います。

①フィールドワーク・調査

徳永進 (鳥取県・らいの家) 聞き取り調査

日 程：2021年10月16日(土)

自衛隊基地の地域社会史

自衛隊 (及び米軍) と地域社会の歴史的関係に着目した広義の「軍事化」研究を行います。

研究会

①「シンシア・エンローにおける「軍事化」概念」 (オンライン開催)

日 時：2021年7月10日(土)15:00～17:30

講 師：望戸 愛果氏 (立教大学アメリカ研究所特任研究員 / 立教大学兼任講師 / 筑波大学人文社会学系非常勤研究員)

コメンテーター：番匠 健一氏 (広島国際学院大学准教授)

司 会：松田 ヒロ子氏 (神戸学院大学准教授)

参加者：20名

②プロジェクト内研究報告会

日 時：2021年10月9日(土)13:00～17:00

参加者：番匠 健一氏 (広島国際学院大学准教授)

松田 ヒロ子氏 (神戸学院大学准教授)

大野 光明氏 (滋賀県立大学人間文化学部准教授)

中島 弘二氏 (金沢大学人間科学系教授)

津田 壮章氏 (立命館大学国際平和ミュージアム 平和教育研究センターリサーチアシスタント)

③「基地政治の展開」

「チュレー空軍基地とグリーンランド地域社会」

日 時：2022年2月23日(水)・(木)15:00～17:00

講 師：高橋 美野梨氏 (北海学園大学准教授)

コメンテーター：大野 光明氏 (滋賀県立大学人間文化学部准教授)

司 会：番匠 健一氏 (広島国際学院大学准教授)

フィールドワーク・調査

④北海道恵庭、矢臼別軍事演習場調査

日 程：2021年7月23日(金)・(土)～28日(水)

⑤日出生台軍事演習場調査

日 程：2021年11月12日(金)～15日(日)

京都国際比較人権セミナー

国際比較法的な観点から見た人権問題の研究を行います。

セミナー・シンポジウム・研究会・講義

①Online Seminar on Asia and Latin America Enforcement Law

テーマ：Effective Rights Protection in Chinese Enforcement Law

日 時：2021年5月1日(土)10:00～12:00

講演者：Assistant Prof. Dr. Zhixun CAO
(Law School, Peking University)

司 会：Prof. Dr. Masahisa Deguchi
(Faculty of Law, Ritsumeikan University)

コメンテーター：Prof. Dr. Álvaro Pérez Ragone
(Facultad de Ciencias Jurídicas, Universidad Católica del Norte)

②Online Seminar on Comparative Justice System

テーマ：E-litigation and Human Rights in S. Korea

日 時：2021年6月5日(土)12:55～14:25

講演者：Hyungdu Kim
(Vice Minister of National Court Administration in S. Korea)

司 会：Prof. Dr. Masahisa Deguchi
(Faculty of Law, Ritsumeikan University)

③ Online - Symposium “Corona-Pandemie und verfassungsrechtliche Probleme”
anlässlich des 160-jährigen Jubiläums der deutsch-japanischen Beziehungen

テーマ：Corona-Pandemie und verfassungsrechtliche Probleme

日 時：2021年6月11日📍

10:30～12:30 (Berlin) =17:30～19:30 (Kyoto)

基調講演者：Prof. Dr. Rupert Scholz

(Bundesverteidigungsminister a. D., LMU München)

司 会：Prof. Dr. Masahisa Deguchi (Ritsumeikan Universität)

コーディネーター：Prof. Dr. Hans-Peter Marutschke
(Doshisha Universität)

コメンテーター：Prof. Dr. Dr. h.c. Dr. h.c. Angelika Nußberger

(Vizepräsidentin am Europäischen Gerichtshof für Menschenrechte a.D., Universität zu Köln)、他

④ 比較司法制度研究会

テーマ：US-American Litigation, ICT and Human Rights

日 時：2021年7月13日📍12:55～14:25

会 場：平井嘉一郎記念図書館 1階カンファレンスルーム

講演者：Prof. Jeffrey Lubbers (WCL, Washington College of Law)

司 会：出口 雅久氏 (立命館大学法学部教授)

⑤ 比較司法制度研究会 (オンライン開催)

テーマ：裁判手続IT化の憲法論

日 時：2021年8月27日📍16:00

講 師：吉原 裕樹氏 (大阪弁護士会)

司 会：出口 雅久氏 (立命館大学法学部教授)

⑥ Online-Symposium “Digitalisierung im Zivilprozess unter den Aspekten von Demokratie, Rechtsstaat und Menschenrechten”
anlässlich des 160-jährigen Jubiläums der deutsch-japanischen Beziehungen

テーマ：Digitalisierung im Zivilprozess unter den Aspekten von Demokratie, Rechtsstaat und Menschenrechten

日 時：2021年9月17日📍

10:00～12:00 (CET) = 17:00～19:00 (JST)

基調講演者：Prof. Dr. Dr. h.c. mult. Hanns Prütting
(Universität zu Köln)

司 会：Prof. Dr. Masahisa Deguchi (Ritsumeikan Universität)

コーディネーター：Prof. Dr. Antonio Karaiskos (Universität zu Kyoto)

コメンテーター：Prof. Dr. iur. Dr. h.c. Takehiko Mikami
(Musashino Universität)、他

⑦ Online - Lecture

テーマ：The primacy of EU law over national law : Rule of law contested - the Case of the Polish Constitutional Court

日 時：2022年1月8日📍16:20～17:50

講演者：Prof. Dr. Michael Reiterer

(Visiting Professor at Ritsumeikan University WS 2021/2022)

⑧ Online - Lecture

テーマ：The primacy of EU law over national law : Rule of law contested - the Case of the Polish Constitutional Court

日 時：2022年2月12日📍

9:00～10:30 (CET) =17:00～18:30 (JST)

講演者：Prof. Dr. Michael Reiterer

(EU-Ambassador ret., Centre for Security, Diplomacy & Strategy at the Brussels School of Governance)

⑨ Ritsumeikan University Online Seminar

テーマ：Immigration Policy in Europe

—Torn Between Demography, Values and War

日 時：2022年3月12日📍

9:30～11:30 (CET) =17:30～19:30 (JST)

講演者：Prof. Dr. Michael Reiterer

(EU-Ambassador ret., distinguished Professor at the Centre for Security, Diplomacy and Strategy (CSDS) of the Brussels School of Governance (BSoG) and the editor of the CSDS policy brief series.)

⑩ Preliminary International Online-Workshop

テーマ：E-Justice, ICT, Data Protection and Human Rights

日 時：2022年3月25日📍

9:00～11:00 (CET) = 17:00～19:00 (JST)

講演者：Prof. Dr. Michael Reiterer

(EU-Ambassador ret., distinguished Professor at the Centre for Security, Diplomacy and Strategy (CSDS) of the Brussels School of Governance (BSoG) and the editor of the CSDS policy brief series.)

Prof. Dr. Meinhard Schröder (Passau University (Germany))

⑪ 紀要『立命館平和研究』第23号における
巻頭シンポジウム記録

発行日：2022年3月14日

日独交流160周年記念オンライン国際シンポジウム
「コロナ・パンデミックと憲法問題」

執筆者：出口 雅久氏 (立命館大学法学部教授)

3.11後の平和博物館の展示内容の改善と国際ネットワークの構築

福島第一原発・原子力災害は、自然の脅威の見方と、人間の技術力の評価に決定的な影響を与えました。本研究では完成した「展示：福島第1原発事故が意味するもの」の英語版を作り、国際社会に普及します。

①「展示：福島第1原発事故が意味するもの」

英語展示制作中

2021年7月に藤田明史氏により日本語パネルの英訳が完了しました。図・写真・英文配置などの調整を行っています。

②ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館

特別展示との調整

ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館特別展示「原発事故はなぜ起きたのか？」および「福島原発事故が最悪の原発事故と考えるはならない」を当プロジェクトの展示構成に取り入れるべく調整を行っています。

パンデミック下のオンライン戦争展の構築

「平和のための博物館国際ネットワーク」と連携したパンデミック下のオンライン戦争展構築のための国際協力の推進に取り組みます。

①化学兵器関係展示の制作

展示制作に向けて、大久野島毒ガス資料館との協力を講じてつあります。

また、安斎育郎氏著書『戦争と科学者一知的探求心と非人道性との葛藤』（かもがわ出版、2022年4月1日刊行）において、テヘラン平和博物館および大久野島毒ガス資料館を紹介しました。

②アウシュヴィッツ関係展示の制作

小淵真理氏（アウシュヴィッツ平和博物館館長）との連携を進めています。

3 センター活動の発信

紀要『立命館平和研究』第23号発行

巻頭シンポジウム記録

日独交流160周年記念オンライン国際シンポジウム

「コロナ・パンデミックと憲法問題」（出口 雅久）

ほか

論文 2本

調査・研究・実践報告 4本

発行日：2022年3月14日発行

附属校平和教育研究会

多様な附属校平和教育の充実および附属校平和教育実践の発信に取り組めます。

①2021年度附属校平和教育研究会

第1回 2021年5月25日🕒16:00～17:00

第2回 2021年7月31日🕒10:00～13:00

第3回 2022年2月25日🕒16:00～17:00

②紀要『立命館平和研究』第23号における実践報告

発行日：2022年3月14日

立命館中学校における沖縄平和研修から見えるもの

—現地研修型平和教育実践の意義と課題—

執筆者：小杉 真之氏（立命館中学校・高等学校社会科教諭）

教育普及活動報告

2021年度の教育普及活動は、ワークショップ等の開催、ミュージアム学生スタッフが中心となり取り組んだ新たな教育普及ツール「すごろく」の開発、当館関係者によるDVD「デジタル平和講義・講話」の作成・提供など、休館中ではありましたが、新たな形で当館のメッセージを発信することができました。

教材キット・パネルの貸し出し

2021年度の新たな取り組みとして、「現代（さいころくん）」を含めた当館の常設展巡回展示キットを本学3キャンパスの図書館にて展示しました。

また、附属校である立命館慶祥中学校・高等学校において、同校の平和学習の一環で、2021年11月に貸出パネル「ヒロシマ・ナガサキ原爆と人間」の展示会が実施され、生徒、保護者の方から大きな反響がありました。

- ・現代（さいころくん）キット
- ・一五年戦争（慰問袋）キット
- ・「原子力と私たちの生活」パネル

2021年度の利用状況は以下のとおりです。

	小学校	中学校	高校	その他	合計
現代（さいころくん）キット	0	0	0	2	2
一五年戦争（慰問袋）キット	1	0	0	1	2
「原子力と私たちの生活」パネル	0	0	0	0	0
合計	1	0	0	3	4

また、各種展示会で活用いただける「展示パネル」の貸出を行っています。

() 内の数字は2021年度の利用状況

- ・原子爆弾：広島・長崎の記録 (1)
- ・原爆と人間展 (1)
- ・沖縄戦と基地 (2)
- ・井戸も掘る医者：ペシャワール会の医療活動・緑の大地計画 (3)
- ・ヒロシマ・ナガサキ原爆と人間 (3)

デジタル平和講義・講話の作成

2023年度リニューアルオープンまでの休館中、当館の常設展見学に伴う「平和講義」・「平和講話」を提供できないため、2021年度の事業計画にもとづき、国際平和ミュージアムの教育・普及活動の一環として、当ミュージアム関係者による「デジタル平和講義・講話」の開発を行いました。

具体的には、作成したDVDの一覧をHP等に掲載し、学園内外の希望者に対し貸し出しを行い、活用しています。

① デジタル平和講義

立命館大学国際平和ミュージアム館長、名誉館長による各30分程度のデジタル教材です。

No.	タイトル	講師
1	核兵器禁止条約	安齋 育郎 名誉館長
2	原発と環境	安齋 育郎 名誉館長
3	基地問題と沖縄	安齋 育郎 名誉館長
4	科学的な見方・考え方	安齋 育郎 名誉館長
5	国連と平和	吾郷 眞一 館長
6	人権と平和	吾郷 眞一 館長

② デジタル平和講話

平和友の会との共同制作による各30分程度のデジタル教材です。

No.	タイトル	講話者
1	国家総動員の中での体験 —小学4年生～6年生—	馬場 央
2	国家総動員の中での体験 —女学校時代—	馬場 央
3	ニューギニアからの生還 出征兵士「橋本清治さん」のお話	馬場 央
4	沖縄研修旅行の事前学習のために	伊藤 昭
5	学校は兵営のようになった —戦時下の立命館第一中学校の軍事教練—	村尾 孝
6	兄弟四人の戦争	村尾 孝
7	敗戦時の東京農業大学満州報国農場 —2度国に棄てられた農学徒たちの記録—	村尾 孝
8	ぞうさんたちの死 戦争と岡崎動物園	布川 庸子
9	戦争中の子ども	布川 庸子
10	父の戦争体験	松田 愛子
11	青い目の人形	中野 恭子
12	二度の死線を越えて —母の大阪空襲・広島原爆体験—	鳥羽 洋子
13	五八年後の原爆 —若者たちに平和へのバトンを託す—	花垣 ルミ (紙芝居の上演・聞き手) 小野 房子

14	戦地から帰ってきた中野信夫（医者）のお話 —インパール作戦ビルマ敗走記—	中野 圭子 (本の朗読・聞き手) 小野 房子
15	子どもたちを戦場に送りだすための教育 —二度と「墨塗り」教科書の悲劇を くりかえさないために—	足立 恭子
16	核兵器のない世界と未来をめざしましょう！	足立 恭子

※No.16は、2023年9月（予定）リニューアル開館後、館内利用
限定でご利用いただけます。

教育普及ツールの開発

すごろくゲーム

「平和Lab. (ラボ) ～戦争がなければ平和なの？～」

対象年齢：小学校高学年～

大人の人と一緒になら、小学校低学年でも楽しめます。

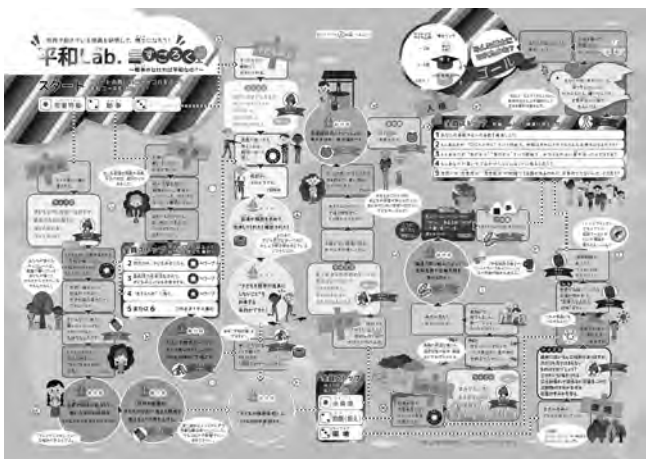
推奨人数：2～5人

所要時間：20～30分（コマとサイコロづくりも含む）

学生スタッフを中心となり、すごろくゲーム「平和Lab. (ラボ)～戦争がなければ平和なの？～」を制作しました。2階常設展示室の内容をもとに、「紛争」「児童労働」「子ども兵士」「飢餓」「水資源」「環境」「人権」をテーマにしたすごろくで、リニューアル休館中の取り組みの一つとしてWebサイトよりダウンロードできる形式としています。

小学校高学年以上を対象とし、試作版の公開から「平和のための京都の戦争展」での対面実演を経て、より多くの利用者の意見を取り入れて完成度を高めることができました。休館中のため来館者と接する機会がなかった学生にとっても博物館活動の一端を経験することができました。

<https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/exhibition/event/20210708/>



学生スタッフの取り組み

リニューアルに伴う休館のため、学生スタッフによる2階展示室の展示紹介（ナビ）業務も休止となりましたが、展示紹介（ナビ）以外の取り組みとしてワークショップと交流会の2つの企画を実施しました。新型コロナウイルスの影響による制約もありましたが、実りある企画になるよう、学生スタッフ同士で協力しながら取り組むことができました。

①ワークショップ

「SDGsって何だろう～身近なところから学ぼう～」

日時：2021年12月6日(日)17:00～18:30

講師：新堀 春輔氏 (公益財団法人京都市環境保全活動推進協会)
(京エコロジーセンター指定管理者)

参加者：17名

SDGsの基本を改めて理解し、自分たちに出来る取り組みを考えることを目的として、ワークショップを開催しました。当日はディスカッションも盛り上がり、SDGsを身近に感じてもらうことができました。参加者からは「周りに興味を持って行動することでもSDGsに貢献できると思った」などの感想をいただきました。



②学生スタッフ・ボランティアガイド交流会

日時：2021年11月26日(金)12:30～14:30

参加者：18名

学生スタッフ主催で、ボランティアガイドの方との交流会を開催しました。当日は、ガイド記録映像を鑑賞し、ボランティアガイドの方から展示ガイドの難しさや工夫している点を解説いただきました。それぞれの活動・状況などに関する質問も盛り上がり、参加者からは「また企画してほしい」との感想をいただきました。



第68回 不戦のつどい 「わだつみ像」前集会

日 時：2021年12月8日(水)12:30～13:00

第68回不戦のつどい「わだつみ像」前集会は、昨年に引き続き、感染拡大防止の観点から参加者を各組織の代表10名に限定し、2021年12月8日に開催されました。

最初に司会者から「不戦の誓い」が朗読され、参加者の黙祷に続き、佐藤颯平不戦のつどい実行委員会委員長・学友会中央常任委員長および仲谷善雄総長より挨拶、各組織の代表者による献花が行われ、最後に板木雅彦教職員組合執行委員長による閉会挨拶で終了しました。

参加者一同、戦争の歴史を再認識し、先人たちの教訓から同じ過ちを繰り返してはならないこと、世界中の人々が自らの夢や希望を抱き、未来を実現できる社会となることを誓いました。



「わだつみ像」前集会で挨拶する仲谷総長

《関連企画》

①「わたしたちの「不戦」ってなんだ？

—あなたの「ゆるせないコト」と「戦い」から考える—

日 時：2021年12月10日(金)11:30～12:30

ファシリテーター：

森久 智江氏 (立命館大学法学部教授)

神戸 海千代氏 (株式会社かんべ笑会代表)

佐藤 颯平氏 (立命館大学法学部四回生)

川崎 有璃子氏 (立命館大学職員)

主 催：不戦のつどい実行委員会

共 催：立命館大学国際平和ミュージアム



この関連企画から生まれた「あなたにとっての不戦や平和」を考えることを呼びかけるポスター

②第68回不戦のつどい2021企画 in OIC

(大阪いばらきキャンパス)

テーマ：いま平和を考える—フクシマから10年—

日 時：2021年12月14日(火)16:40～18:30

会 場：立命館大学大阪いばらきキャンパス B棟3階コロキウム

講 師：村本 邦子氏 (立命館大学大学院人間科学研究科教授)

司 会：山崎 文徳氏 (立命館大学経営学部教授)

主 催：不戦のつどい実行委員会 (OIC)

共 催：立命館大学国際平和ミュージアム
立命館大学教職員組合

2021年度の第68回不戦のつどい2021企画in OICでは、「今、平和を考える～福島第一原発事故から10年～」のテーマで人間科学研究科教授の村本邦子先生に講演いただき、参加者とともに平和について多様な面から意見交換を行いました。

本企画を通して、福島では事故から10年が過ぎた現在においても様々な問題が存在し、この福島の今を伝えること、「証人」となることが大切だというメッセージを参加者は共有することができました。参加者からは「原発の問題を考える上で当事者性を持つということの重要性が分かった」「現地の生の声を聴くことができてよかった」等のご意見をいただきました。



質疑応答の様子 (右側：村本先生)

博物館資料

資料・図書の受入（寄贈・寄託）

2021年度における資料・図書の寄贈受け入れ状況は以下のとおりです。（2021年度の寄託・寄贈の受け入れは11月末まで）また、キャビネット資料（図書）に未整理・登録資料400点が確認され、臨時登録を行いました。（以下の受入資料の数値に含まず。）

なお、寄託資料、借用資料の一部について、リニューアル工事期間中所蔵者へ一時返却および返還手続きを行いました。

一時返却 無言館 展示資料 69件・沖縄県平和祈念資料館 借用資料 16件

返還資料 伊藤一長関連資料群 19件・大月書店関連資料群 60件・広河隆一関連資料 1件

収蔵資料数 寄贈・購入・資料 42,002件

寄託資料 4,051件

(2022.3.31 現在)

2021年度寄贈資料

●個人・団体……………26件 339点

●主な資料

日露戦争関連資料 寄贈者曾祖父の遺品で、従軍記録を元に制作された屏風。

映像資料 寄贈者叔父が撮影した大正・昭和初期のフィルム類。当時の立命館の記録映像が含まれており、希少な映像資料。

予科練関連資料 寄贈者父の遺品で、霞ヶ浦海軍航空飛行予科で使用された教科書・参考書一式。

長尾家関連資料群 昭和初期から戦後にわたり、京都で医院を経営した長尾家の資料。当時の京都日赤や保健所、女性医師の活動などがうかがえる貴重な資料群。

資料貸出・閲覧状況

貸出：10件

閲覧：26件

寄贈図書

図書（個人）…………… 42件 269冊

図書（団体）……………154件 385冊

合計……………196件 654冊

図書購入

348件（高額図書、映像資料含む）

2021年度 資料・図書などの寄贈者一覧

資料									
安齋育郎	伊吹勇亮	薄木智亮	岡本久子	片岡義男	兼清順子	金本憲吉	公庄れい	斉藤学	
嵯峨根まゆみ	清水郁子	竹田茂樹	長尾万里子・三千代		中村毅夫	西川賢	能崎嘉子	藤田貞代	
前田富哉	松居浩二	森田和恵	山口のり子	山下円美	山本由美子	Jhon Russell			
図書									
阿部靖子	安齋育郎	伊藤昭	及川淳一	岡田総子	小野房子	兼清順子	金本兼吉	公庄れい	
久保田安子	古城義洋（渡部智子）		小西つぐみ	近藤康三	志岐常正	穴戸清孝	清水郁子	田中聡	
津田有里子	富井恭二	鳥井真木	永野泉	名倉喬	福井駿	藤原英博	淵田悌二	堀池真一	
前田富哉	的場政紘	柳田文男	山根和代						

(敬称略・50音順)

2021年度は、以上の方々から資料や図書などをご寄贈いただきました。お名前を記し、感謝の意を表します。

また、図書の寄贈者一覧につきましては、許可をいただいた方のみ、お名前を掲載させていただいています。

2021年度活動記録

特別展	10/11～10/31	特別展「世界報道写真展 2021—私たちは生きる」	1,888
	10/11～10/15	滋賀会場：立命館大学びわこ・くさつキャンパス エポック立命 21 エポックホール	237
	10/18～10/31	京都会場：立命館大学衣笠キャンパス 西園寺記念 カンファレンスルーム	1570
	10/9	関連企画：オンライン講演会「アフガニスタンの現状を理解するために」	81
	常設展巡回展示		
	4/1～4/29	立命館大学大阪いばらきキャンパス OIC ライブラリー	
	9/24～10/31	立命館大学びわこ・くさつキャンパス BKC メディアライブラリー	
	11/24～1/27	立命館大学衣笠キャンパス 平井嘉一郎記念図書館	
	立命館附属校への協力		
	7/5～7/20	立命館小学校 巡回展示「広島×原爆×当時の暮らし」/立命館小学校 メディアルーム、ロビー	
	7/5	平和講義/講師：安斎 育郎氏（立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長）/立命館小学校 アクトシアター	
	9/24	立命館守山中学校：平和講義/講師：安斎 育郎氏（立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長）（オンライン）	
	11/17	立命館慶祥中学校：平和講義/講師：安斎 育郎氏（立命館大学国際平和ミュージアム名誉館長）（オンライン）	
	11/24～11/30	パネル展示「ヒロシマ・ナガサキ 原爆と人間展」/立命館慶祥中学校 メディアセンター	
	立命館土曜講座（オンライン）		
	8/7	①「85年前のこの月—「民俗の祭典」（1936）を振り返る」	
	9/18	②「『資本主義リアリズム』とオリンピック」（延期開催日）	
	4/24	平和教育研究センター企画「ミャンマーの現状を理解するために」（オンライン）	
	5/1	京都国際比較人権セミナー Online Seminar on Asia and Latin America Enforcement Law テーマ：Effective Rights Protection in Chinese Enforcement Law	
	5/25	附属校平和教育研究会 2021年度第1回附属校平和教育研究会	
	6/5	京都国際比較人権セミナー Online Seminar on Comparative Justice System テーマ：E-litigation and Human Rights in S. Korea	
	6/11	京都国際比較人権セミナー Online-Symposium "Corona-Pandemie und verfassungsrechtliche Probleme" anlässlich des 160-jährigen Jubiläums der deutsch-japanischen Beziehungen	
	6/26	平和教育研究センター企画「核兵器のない世界」をめざすために～核兵器禁止条約と私たちにできること～	
	7/10	自衛隊基地の地域社会史 研究会「シンシア・エンローにおける「軍事化」概念」（オンライン）	
	7/13	京都国際比較人権セミナー 比較司法制度研究会 テーマ：US-American Litigation, ICT and Human Rights /平井嘉一郎記念図書館 1階カンファレンスルーム	
	7/21～10/20	教員免許状更新講習	
	7/23～7/28	自衛隊基地の地域社会史 フィールドワーク・調査 北海道恵庭、矢野別軍事演習場調査	
		第41回 平和のための京都の戦争展 2021	
	7/23～7/29	展示企画：「おーい！日本人兵士諸君、聞こえるか！—中国における日本人反戦活動—」（協力）/京都教育文化センター 102号室	
	7/23	講演企画：「鹿地巨資資料から見る在華戦争捕虜について」（協力）/京都教育文化センター 301号室	
	7/27～8/1	令和3年度 茨木市非核平和展（協力）/茨木市中央図書館 2階ギャラリー	
	7/31	附属校平和教育研究会 2021年度第2回附属校平和教育研究会	
	8/27	京都国際比較人権セミナー 比較司法制度研究会「裁判手続IT化の憲法論」（オンライン）	
イベント 講演会 その他活動	9/11	第55回原爆忌全国俳句大会（後援）	
	9/11～12/25	マンガ・パンデミックWEB展 2021（共催）	
	9/17	京都国際比較人権セミナー Online-Symposium "Digitalisierung im Zivilprozess unter den Aspekten von Demokratie, Rechtsstaat und Menschenrechten" anlässlich des 160-jährigen Jubiläums der deutsch-japanischen Beziehungen	
	10/9	平和教育研究センター企画「アフガニスタンの現状を理解するために」（オンライン）	
	10/9	自衛隊基地の地域社会史 プロジェクト内 研究報告会	
	10/16	博物館の資料研究（戦後社会セクション） フィールドワーク・調査 徳永進（鳥取県・らいの家）聞き取り調査	
	10/29	平和博物館における戦争体験継承 研究会「戦争体験を第4世代（次世代）に語り継ぐ平和博物館：平和教育学の観点から」（オンライン）	
	11/12～11/15	自衛隊基地の地域社会史 フィールドワーク・調査 日出生台軍事演習場調査	
	11/17	平和博物館における戦争体験継承 フィールドワーク・調査 藤田真代氏聞き取り調査（家族の体験聞き取り）占領期の進駐軍兵士との交流について	
	11/26	学生スタッフ・ボランティアガイド交流会	
	12/6	ワークショップ「SDGsって何だろう～身近なところから学ぼう～」（オンライン）	
	12/8	博物館の資料研究（一五年戦争セクション）第21回メディア資料研究会「台湾史探求の落とし穴：植民地支配責任を考える前に」（オンライン）	
	12/8	第68回 不戦のつどい「わだつみ像」前集会	
	12/10	関連企画：「わたしたちの「不戦」ってなんだ？—あなたの「ゆるせないコト」と「戦い」から考える—」（共催）	
	12/14	第68回不戦のつどい 2021 企画 in OIC いま平和を考える—フクシマから10年—（共催）	
	12/10	平和博物館における戦争体験継承 オンラインシンポジウム「Trails of Peace between history, memory and communication (IULM University)」発表 テーマ：Kyoto Museum for World Peace and its Approach to Memory	
	1/8	京都国際比較人権セミナー Online-Lecture テーマ：The primacy of EU law over national law : Rule of law contested - the Case of the Polish Constitutional Court	
	1/17	博物館の資料研究（一五年戦争セクション）第22回メディア資料研究会「カラー写真と占領期京都研究」（オンライン）	
	2/12	京都国際比較人権セミナー Online-Lecture テーマ：The primacy of EU law over national law : Rule of law contested - the Case of the Polish Constitutional Court	
	2/23	自衛隊基地の地域社会史 研究会「基地政治の展開：チューレ空軍基地とグリーンランド地域社会」（オンライン）	
	2/25	附属校平和教育研究会 2021年度第3回附属校平和教育研究会	
	3/12	京都国際比較人権セミナー Ritsumeikan University Online Seminar テーマ：Immigration Policy in Europe - Torn Between Demography, Values and War	
	3/25	京都国際比較人権セミナー Preliminary International Online-Workshop テーマ：E-Justice, ICT, Data Protection and Human Rights	
	3/28	博物館の資料研究（一五年戦争セクション）第23回メディア資料研究会「学生スタッフによる研究報告」（オンライン） ①「小林秀雄「戦争と平和」論—〈写真〉への眼差し」②「『銃後史ノート』について—戦時を分析する主体の検討—」	
	3/30	平和教育研究センター企画「国際法の立場から見る ウクライナをめぐる問題についての Web 討論会」	

※会場記載のないものは、すべて立命館大学国際平和ミュージアムもしくはオンラインにて開催

リニューアルに伴う休館中のご利用案内

現在、2023年9月のリニューアル・オープンを目指して大規模なリニューアルに取り組んでいます。リニューアルの概要につきましては、準備の進捗に合わせて随時紹介していきます。リニューアルの様子や休館中の活動につきましては、ホームページでも紹介していきますので、ぜひご確認ください。

リニューアルの目的

◆常設展示の見直し

2005年のリニューアル以降、大学をめぐる環境、国内外の平和をめぐる情勢やデジタル技術が大きく変化しているなかで、展示のあり方を見直し、展示を見る人に「なぜ」という問いを喚起し、主体的な学習へとつながる展示への見直し

◆設備の刷新と博物館としてのゾーニングの見直し

トイレや階段の改修といったバリアフリーを含むユニバーサルデザインへと見直し
来館者の見学動線を踏まえた博物館施設のゾーニングの見直し

休館中にご利用できるコンテンツ紹介

WEB展示

◆WEB常設展示

～平和のために「私たちに何ができるか」を考え続けよう～

現在の常設展示の一部資料をいつでもご覧いただけるようにWEBにて公開しています。ぜひ、ご利用ください。



ポスター



狛犬

◆ミュージアム資料

「国際平和ミュージアムだより」で紹介した資料やミュージアム関係者お薦めの資料、合計27点について解説文と関連資料を紹介しています。



※WEB展示におけるデジタルコンテンツは、今後も充実していく予定です。

デジタル平和講義・講話

デジタル平和講義・講話の開発を行いました。それぞれ30分程度の内容でDVDにてご希望の団体などに貸出を行っています。詳しい内容は、ホームページにてご確認ください。



収蔵資料データベース Peace Archives

Peace Archivesでは収蔵する博物館資料約4万8千点(2020年現在)の詳細や画像を見ることができます。博物館資料の閲覧・貸出は行っていません。(2023年9月まで)



教材キット・パネルの貸出

教材キット・パネルの詳細内容や貸出手続きについては、ホームページにてご確認ください

◆教材キット

児童や生徒が、歴史や社会科などの授業を楽しく深く学ぶための教材を無料で貸出しています。



現代(さいころくん)キット

現代社会の諸問題をデータで紹介する組立て式キットです。平和な暮らしをほばむさまざまな現実を、子どもたちにも見つけるヒントをつかむことができます。



原子力と私たちの生活パネル

わかりやすい解説DVDと、核兵器と原発という核エネルギーの異なる利用方法を一体に理解できるパネル6枚をセットにしたキットで、理科や社会科でエネルギー問題の未来を考えることができます。

一五年戦争(慰問袋)キット

慰問袋、キャメル、書籍などの歴史資料の複製と資料解説カードが入ったキットで、戦争の実態や当時の様子を考えることができます。

◆展示パネル

5つのテーマの展示パネルを貸出しています。



「井戸も掘る医者・ベジャール会の医療活動・緑の大地計画」展示の様子

すごろくゲーム

平和Lab.(ラボ)～戦争がなければ平和なの？～

ミュージアム学生スタッフが中心となって作ったすごろくゲームです。自由にダウンロードしてお楽しみください。



遊心雑記

福島に咲くか、愛吉・すずのバラ

安齋 育郎 (国際平和ミュージアム名誉館長)

国際平和ミュージアムのエントランス前の植え込みには、「アンネのバラ」と「愛吉・すずのバラ」が植えられています。「アンネのバラ」は季節が来ると枝いっぱいにつけ、黄金色からサーモンピンク、そして赤へと色を変えながら私たちに、「もしアンネ・フランクが生きていたら多彩な能力を開花させただろう」と語りかけます。

一方、「愛吉・すずのバラ」は花数こそ多くありませんが、凜とした気品のある花を咲かせます。「アンネのバラ」は、1960年に「アンネ・フランクの形見」(Souvenir d'Anne Frank)として登録された品種ですが、「愛吉・すずのバラ」は、1954年3月1日にアメリカがビキニ環礁で行った水爆実験で被災したマグロ漁船「第五福竜丸」の無線長・久保山愛吉さんが愛おんでいたバラということで、品種名ではありません。愛吉さん亡き後、妻のすずさんがこのバラを引き継ぎ、丹精込めて育てていましたので、すずさん亡き後、「非核の世界を求める心」の象徴として「愛吉・すずのバラ」と命名され、普及されました。

私は1970年代から原水爆禁止運動に関わり、毎年3月1日には焼津の追悼のつどいに参加していました。やがて、地元の中学教師として地道にビキニ水爆被災事件に取り組んでいた故・飯塚利弘さんと知己を得ましたが、すずさんは飯塚さんに全幅の信頼を寄せていました。国際平和ミュージアムが開設した翌年(1993年)の7月、私は飯塚さんおよび当時の国際平和ミュージアム・スタッフだった加戸綾乃さんととも

に病床に臥せていたすずさんを見舞いました。そして、国際平和ミュージアムでも愛吉さんのバラを育てたい旨を申し上げたところ、すずさんは病身にもかかわらず自ら庭に出て、バラを分けてくれました。

今、このバラは、静岡の粕谷たか子さんの協力も得て、私たちが福島県檜葉町に立ち上げた「ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ・フクシマ伝言館」の前庭にも移植され、元気に鋭い棘を張り、葉を繁らせ、美しく咲いています。



福島県檜葉町の宝鏡寺境内の「愛吉・すずのバラ」
(2022年6月10日)

組織図

立命館大学
|
立命館大学国際平和ミュージアム
├ 平和教育研究センター
├ メディア・資料セクター
└ 展示セクター

運営体制

(2022年度)

館長
副館長

平和教育研究センター長
平和教育研究センター 副センター長

メディア・資料セクター長
展示セクター長

吾郷 眞一 (立命館大学衣笠総合研究機構教授)
市井 吉興 (立命館大学産業社会学部教授)
細谷 亨 (立命館大学経済学部准教授)
吾郷 眞一 (立命館大学衣笠総合研究機構教授)
加國 尚志 (立命館大学文学部教授) (2022年6月30日まで)
市井 吉興 (立命館大学産業社会学部教授) (2022年7月1日より)
田中 聡 (立命館大学文学部教授)
西林 孝浩 (立命館大学文学部教授)

立命館大学国際平和ミュージアムだより

立命館大学
国際平和ミュージアム
Kyoto Museum for World Peace,
Ritsumeikan University

第30巻 第1号 (通巻87号) 2022年6月29日発行
編集・発行 立命館大学国際平和ミュージアム
〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1
TEL : 075-465-8151 / FAX : 075-465-7899
<https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/>



今後、特別展のご案内、ミュージアムだより等、国際平和ミュージアムより送付をご希望されない場合、また、送付先の住所変更等ございましたら、氏名・団体名、送付先住所、電話番号、FAX番号をご記入の上、FAXにて国際平和ミュージアム(075-465-7899)へ送信下さい。